

記者メモ

○:「そんなお金はないですよ」——橋下大阪市長の常套句の一つです。知事時代から強行してきた住

民サービス切り捨てや施設の統廃合。議会など

で批判を受けると「お金があるんなら、僕だってやりたいですよ」と、まるで自分自身も被害者みたいな口ぶり。

大阪市議会民生保健委員会(1月22日)で、住吉市民病院の現地継続・建て替えを求め

た日本共産党の北山良三議員に、「人口減少社会でこれから税収も見込めない中で、施設や公共のサービスはできる限り見直し、身の丈に合ったサービスにしないとイケない」。

のJR東海の負担軽減を政府に求めることを確認しました。さらに同時開業に向け、府や市が「地元負担」について検討するといっています。松井知

は、工事に伴う自然破壊や住民生活への影響などに不安と懸念がますます広がっています。総事業費は約9兆円が、国民にツケ回しされる危険も指摘されています。

「お金あればやる」の大ウソ

『大阪都』

構想と東京—大阪間のリニア開業は、日

○:その前日、橋下氏は松井知事と共に「リニア中央新幹線全線同時開業推進協議会」の総会に出席。東京—名古屋間の開業(27年)に合わせて名古屋—大阪間(計画では45年)を前倒しするため、事業主体

事は総会後、「地元負担からは逃げない」「負担も何もなしでJR東海に18年も前倒しを決意してもらえとは思っていません」と語っています。

本再生の切り札」と言う橋下氏。「お金があればやる」と住民要求に背を向けながら、超巨大プロジェクトには「地元負担」を口にするとは。問われるのは政治の中身です。(す)